



週報 第3321回

会 長 杉本 憲一 副会長 中 透
幹 事 細川 嘉則 SAA 川崎 久典

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日12:30~13:30



泉大津ロータリークラブ

Izumitsu Rotary Club

事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumitsu-rc.org
ホームページ http://izumitsu-rc.org



今週の例会 (2026年1月16日) 第3321回

■ プログラム

クラブアッセンブリー 各奉仕部門担当理事

■ 次週のプログラム

1月23日: 新年特別卓話
泉大津市長 南出 賢一 様

■ 今後の予定

1月30日: 卓話担当 川端 徹 会員

■ 祝 誕生日

櫻井 善章(16日)
南出 和成(22日)

■ 今月のロータリーソング

それこそロータリー

今月の歌

たき火

垣根の垣根の 曲がり角
たき火だたき火だ 落ち葉たき
あたろうか あたろうよ
北風ぴいぶう 吹いている

■ 先週の例会

幹事報告

細川 嘉則 幹事

- 本日6時より、理事役員会をホテルレイクアルスター7階の小津で開催します。定刻までにお集まりいただきますようよろしくお願い致します。
- 高石ロータリークラブ例会変更のお知らせ
1月13日(火)の例会は休会。
- 皆さんのテーブルの方に、ガバナー月信1月号が置かれております。地区の活動として興味深い内容がありますので、ぜひご覧いただきますようよろしくお願い致します。

委員会報告

- 創立70周年の記念式典が、5月24日(日)難波セントラグランドホテルにて執り行われますので、どうぞよろしくお願い致します。記念事業も1月15日(木)映画「心の傷を癒すということ」をテクスピアで上映致します。3月22日(日)ロータリー記念ゴルフコンペを執り行いますので奮ってご参加のほどよろしくお願い致します。
(松内 俊夫 70周年実行副委員長)
- 1月15日(木)の映画上映会ですが、午前の部と午後の部があります。参加いただける方、8時ホワイエに集合、午後の部は13時ホワイエ集合となっております。

ります。映画は9時30分から、午後は13時50分から上映です。(今井 克範 70周年実行委員)

○1月15日(木)の映画上映会ですが、お手伝いして頂ける方、私の方から個別に連絡させてもらいたいと思います。クラブメンバーの方で、当日映画を鑑賞される方は、2階の方で席が空いております。当日よろしくお願ひ致します。

(山本 博章 70周年実行委員)

○70周年記念ゴルフは3月22日(日)です。まだ案内書はまわしておりませんが、予定だけよろしくお願ひ致します。いつもより多い参加でお願い致します。詳細は案内書でおくらせてもらいます。

(道正田 均 70周年実行委員)

○ロータリーの友1月号の読みどころの紹介。

(森田 真一郎 会報・IT委員長)

■ ビジター

なし

■ 出席報告 会員数40名 出席免除 0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
1/ 9	31名	9名	—	77.50%
12/20	31名	9名	3名	85.00%

■ メークアップ

榎本(12/26 ワールド大阪ロータリーEクラブ)
川上(12/12 親睦活動委員会)
外山(12/18 和泉南ロータリークラブ)

■ ニコニコ箱

- ・明けておめでとうござひます。本年もロータリー活動に全員で取り組んでいきましょう(杉本)
- ・皆様、本年もよろしくお願ひいたします。何事もうまくいきますように!(細川)
- ・新年あけておめでとうござひます。本年もよろしくお願ひします(川崎)
- ・本年もどうぞ宜しくお願ひします(南出)

ニコニコ箱合計	11,000円
累計	366,000円

先週のプログラム 「新年会長挨拶」



杉本 憲一 会長

皆様、新年明けておめでとうござひます。
良き正月を家族と共に過ごされましたか。
本日は年頭の会長卓話として、「昭和100年を振り返って」という題目で、お話しします。

— 激動の時代が私たちに残したもの —
大正15年(1926年) 12月25日、大正天皇が崩御され、同日以後を改めて昭和元年とする旨の改元の詔書が発せられました。昭和天皇のご即位12月25日-12月31日とともに始まり、1989年まで63年間1989年(昭和64年)1月7日まで続いた時代です。(元号の改元で昭和64年は平成元年)なお、昭和元年の人口は約6000万人。昭和元年は、大正デモクラシーの終焉と軍部の台頭が始まる時期と重なります。産業の発展に伴い、農村から都市への人口移動が進み、社会構造が大きく変化していく転換点でもありました。
【日本のロータリークラブはというと、東京ロータリークラブ(RC)が、米山梅吉と福島喜三次の出会いに始まって、大正9年(1920年)10月にチャーターメンバー25名が集まって創設されました。当時の日本は、第一次大戦に連合国側として参戦。一時的な景気に

沸いたものの、戦後は恐慌に襲われ、不景気のなかで農民運動や初のメーデーが行われるなど揺れ動いていた。ロータリー精神が容易に受け入れられるような状況ではなかったが、米山の熱意は少しも衰えなかった。福島への帰国後、具体的な準備作業が進められたと記されています。なお、大阪ロータリークラブの創立は2年後の11月です。】

そして令和8年の今、昭和元年から数えて100年という節目を迎えました。

昭和という時代を一言で表すなら、「激動」という言葉が最もふさわしいのではないのでしょうか。

戦争と復興、高度経済成長、価値観の変化、そして国民一人ひとりの生活の大きな転換。

今日は、その昭和を三つの時期に分けて振り返りながら、現代へのメッセージを考えてみたいと思います。

1. 昭和前期 — 戦争と苦難の時代

昭和の前半は、まさに「苦難の時代」でした。

昭和初期、日本は世界恐慌（1929年にアメリカで始まり、1930年代前半にかけて世界中へ波及した、史上最大級の経済恐慌）の影響を受け、失業や貧困が社会を覆いました。・日本では1930年ごろから輸出減少、農村の困窮（娘の身売りなどが社会問題化）、軍部や国家主導経済の台頭につながっていきます。

やがて時代は戦争へと進み、1937年の日中戦争、1941年の太平洋戦争へと突入します。

国民生活は軍需優先となり、食料や物資は不足し、自由な言論も制限されました。

【日本のロータリークラブでは、1940年、当時の政情により国内48クラブがもはや組織的に活動できなくなったことが、日本のロータリー指導者から国際ロータリー世界本部（米国）に伝えられました。このため理事会は、やむなく日本のクラブを脱退・解散としました。】

多くの若者が戦場に送られ、家族は不安と悲しみの中で日々を過ごしました。

1945年、広島・長崎への原爆投下、そして終戦。

この戦争で、日本は300万人以上の尊い命を失いました。終戦時の人口は約7200万人に。

昭和前期は、「命の重さ」と「平和の尊さ」を、痛みをもって学んだ時代だったと言えるでしょう。

2. 昭和中期 — 焼け跡からの復興と高度経済成長
終戦直後、日本は文字どおり「焼け跡の中」からの出発でした。

家も仕事も食べ物もない中で、人々は懸命に生きようとしていました。

【一方、脱退・解散した日本のロータリーの精神は日本で強く生き続けました。第二次世界大戦中、多くの元ロータリアンが「○曜会」という名で例会を続けました（東京では「水曜会」、大阪では「金曜会」）。1948年、日本でのロータリークラブの復帰の可能性を探るため、RI事務総長補佐ミーンズ来日。その際、「水曜会」の事務局に『The Rotarian』誌や他のロータリーの冊子が山積みになっているのを目にしました。また、クラブ会員たちはロータリー歌を歌い、旧東京ロータリークラブが使っていたのと著しく似た名札を着けていました。シカゴに戻ったRI事務総長補佐は、その結果を1949年1月に理事会に報告。これを受けて、理事会はできるだけ早く日本のロータリークラブを復帰させることを決定しました。3月29日東京ロータリークラブに新たな加盟認証状を伝達。京都、大阪、名古屋、神戸のロータリークラブも、4月末までに復帰しました。】

やがて1950年代後半から、日本は驚異的な復興を遂げます。

「もはや戦後ではない」という言葉に象徴されるように、工業化が進み、生活は徐々に豊かになっていきました。当地区泉州の繊維産業もガチャマン時代でした。作れば売れる時代でした。

【1956年5月チャーターメンバー 27名により泉大津ロータリークラブ創立】

白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫。

いわゆる「三種の神器」が家庭に入り、1964年には東京オリンピックが開催されました。

新幹線が走り、高速道路が整備され、日本は世界に向かって復活をアピールしました。

この時代の原動力は、「努力すれば報われる」という信念でした。

長時間働き、家族を支え、子どもにより良い未来を託す。

昭和中期は、日本人の勤勉さと団結力が最も輝いた時代だったと言えるでしょう。

3. 昭和後期 — 豊かさの中で見え始めた課題

1967年（昭和42年）に人口1億人を超えました。

昭和後期になると、日本は経済大国と呼ばれるように

なります。

生活は便利になり、モノはあふれ、娯楽も多様化しました。

しかしその一方で、新たな課題も見え始めます。

公害問題、過度な競争社会、学歴偏重、そして人と人とのつながりの希薄化。

1980年代後半にはバブル経済が起こり、「豊かさ」が加速しますが、それはやがて崩壊し、平成の長い停滞へとつながっていきました。

昭和後期は、「物の豊かさ」と「心の豊かさ」の違いを問いかける時代でもありました。

4. 昭和が私たちに残したもの

では、昭和100年を迎えた今、昭和は私たちに何を残したのでしょうか。

一つは、平和は当たり前ではないという教訓です。ウクライナとロシア、イスラエルとガザの状況を鑑みれば。

戦争を知る世代が少なくなる中で、この記憶をどう継承するかが問われています。

二つ目は、人の力は社会を変えるという事実です。焼け跡から世界有数の経済大国へと成長した背景には、名もなき人々の努力がありました。

三つ目は、人と人とのつながりの大切さです。

地域、家族、職場、団体。

昭和の社会には、今よりも濃密な「支え合い」がありました。

5. 昭和100年から次の時代へ

令和の時代は、少子高齢化、人口減少、価値観の多様化という大きな課題を抱えています。

正解のない時代とも言われます。

しかし、昭和を振り返ると、どの時代にも困難はありました。

それでも人々は知恵を出し合い、力を合わせて乗り越えてきました。

昭和100年とは、単なる年号の区切りではありません。

過去を懐かしむためではなく、未来を考えるための節目なのだと思います。

結びに

激動の昭和を生き抜いた先人たちの努力と犠牲の上に、今の私たちの生活があります。

その歴史に敬意を払いながら、次の時代をどう築いて

いくのか。

昭和が教えてくれた

「平和」「努力」「つながり」

この三つを胸に、未来へ歩んでいきたいものです。

最後に

【日本のロータリークラブも5年前に創設100周年を迎えました。ロータリアンとして今後どのような活動するか、泉大津ロータリークラブも後世に繋いでいくために地域社会と密接に取り組んでいく必要が問われます。地域の商工業の衰退、少子化等様々な問題がありますが、ロータリーの奉仕精神に共鳴する新たな企業人に入会していただき、一緒に活動していくことにこそロータリーの存在意義があります。】



細川 嘉則 幹事